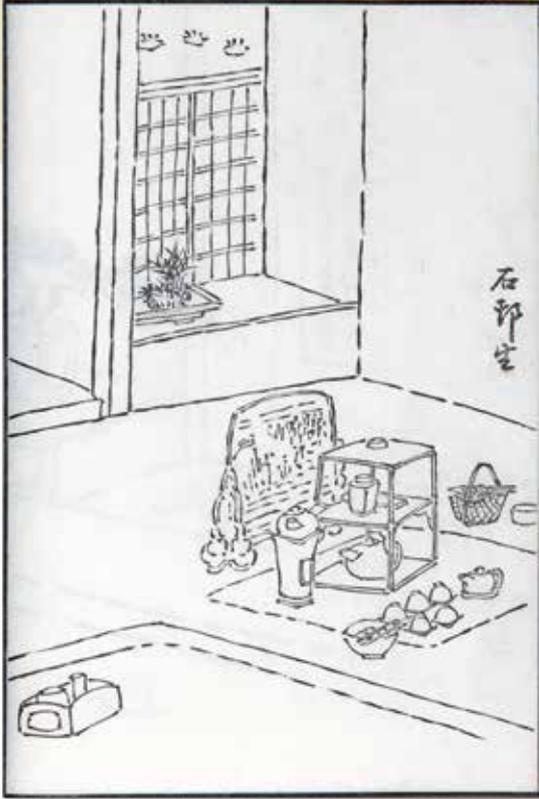


特別展

煎茶と盆栽

～「盆栽」の夜明け



泥もの鉢 — 新たな装い



文人木 — 新たなかたち

座敷飾り — 新たな居場所



盆栽 — 新たな呼び名

盆栽 文趾窓。海氣色磁大盃。養石菖蒲。倍曰針舗。

有檀坐

令和6年 2024 2月10日(土) ~ 3月20日(水・祝)

【会場】さいたま市大宮盆栽美術館 コレクションギャラリー・企画展示室 【休館日】木曜日

【主催】さいたま市大宮盆栽美術館

図版

1. 越智武『亦復一楽茶会図録』大正7年(1918)当館蔵
2. 田口松旭『美術盆栽図』明治25年(1892)当館蔵
3. 田能村直入『茶会図巻』明治7年(1874)人間博物館蔵
4. 田能村直入『青湾茶会図録』文久3年(1863)当館蔵



さいたま市

大宮盆栽美術館

「鉢植え」から「盆栽」へ

文人趣味が変えた盆栽の歴史

「鉢植え」から「盆栽」へ—江戸の園芸から現代の盆栽文化へと至る分岐点に、幕末から明治時代にかけて大流行する文人(詩書画を趣味とする人)による煎茶会があります。

中国の文人文化に範をとり、上方(京・大阪)の文人たちが盛んに開催した煎茶会において、飾りの道具の一つとして盆栽が取り入れられました。この煎茶会を通して、江戸時代以来の鉢植えは、文人趣味の洗礼を受けて決定的な変化をもたらされ、現代に続く「盆栽」が成立していきます。

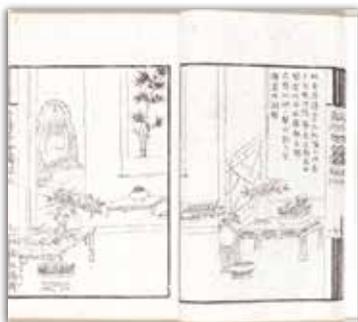
本展では、文人趣味が与えた変化として、①呼称、②飾り方、③盆器、④樹形の4点を取り上げ、煎茶会図録や文人文化を示す資料から、今日の盆栽文化が成立した過程を紹介します。



奥原晴湖ほか 盆栽図寄書
明治時代(1868-1912)
当館蔵



頼山陽(賛) 浦上春琴(画・賛)
仏手柑図 江戸時代後期
個人蔵



田能村直入 青湾茶会図録
文久3年(1863)
当館蔵



烏泥山水文槽円鉢
中国・清時代(1644-1912)
当館蔵

- 第1章 新たな呼び名 — 「盆栽」
- 第2章 新たな居場所 — 座敷飾り
- 第3章 新たな装い — 泥もの鉢
- 第4章 新たなかたち — 文人木

■ イベント・インフォメーション

特別講演

※要事前申し込み

煎茶の精神と文人文化

●講師 工藤 宏氏 ●日時 3月10日(日) 14:00~16:00

申し込み方法 [さいたま市生涯学習情報システム
https://gakushu.city.saitama.jp/](https://gakushu.city.saitama.jp/)

スライドトーク

※先着順

煎茶会図録から見る盆栽文化

●講師 当館学芸員 ●日時 2月11日(日) 13:30~14:30

●会場(共通) 大宮盆栽美術館講座室 ●定員 各30人

特別展ギャラリートーク

●日時 2月17日(土)
3月3日(日)
3月16日(土)
各日13:30~

●会場 コレクションギャラリー

※当日有効の観覧券をお持ちの上、
当館ロビーにお集まりください。
事前申し込みは不要です。

開館時間 11月~2月:9時~16時
3月~10月:9時~16時30分
*入館は30分前まで

休館日 木曜日 ※祝日の場合は開館

観覧料 一般……………310円(200円)
高大生・65歳以上の方……………150円(100円)
小中学生……………100円(50円)

*障害者手帳をお持ちの方と付き添いの方一名は半額
*()内は、20名以上の団体料金



電車利用 JR宇都宮線「土呂駅」下車 東口より徒歩5分
東武アーバンパークライン「大宮公園駅」下車 徒歩10分
車利用 首都高速埼玉新都心線「新都心西」出口より約6km
東北自動車道「岩槻」出口より約9km
駐車場:一般車両39台(2時間まで無料)
大型車3台(880円)、障害者用2台(無料)



さいたま市
大宮盆栽美術館

〒331-0804 埼玉県さいたま市北区土呂町2-24-3
TEL 048-780-2091 FAX 048-668-2323

<https://www.bonsai-art-museum.jp>

このチラシは5,000部作成し、1部当たりの印刷経費は19円です。